

USHIO

第57期

中間

株主通信

[2019年4月1日～2019年9月30日]
2019年12月発行

CONTENTS

USHIO NOW!	P 2
社長メッセージ	P 4
事業の概況	P 6
特集 マスク検査用 EUV光源	P 8
社会とともに	P11
決算の状況	P12
株主さまとともに	P14

USHIO NOW!

ウシオ電機の今

◆ ウシオとは

1964年に産業用光源メーカーとしてスタートしたウシオは、新光源の開発、独自の光学技術の開発・応用に努め、ユニットや装置、システム、さらには光のソリューションを提供する「光創造企業」へと発展してきました。その光技術は、「あかり」の領域だけでなく、産業や科学技術の先端分野で「エネルギー」として幅広く利用され、数多くの「世界シェア No. 1」製品を誕生させるとともに、今日では、バイオや農業、医療、環境をはじめとした、新しいビジネスフィールドを開拓しています。

◆ ウシオのマーケット

Industrial Process

半導体、フラットパネル、精密機器、電子部品、光化学、印刷、産業機器など

Life Science

医療、自然環境、農業、海洋／漁業、セキュリティ、エネルギー、宇宙開発など

Visual Imaging

デジタルシネマ／3D、プロジェクション・マッピング、バーチャルリアリティ（VR）／シミュレーション、監視／制御用映像表示システム、プロジェクター用光源、一般／商業施設用照明、景観照明・演出、ステージ／スタジオ照明・演出、オフィス・ドキュメント用光源など

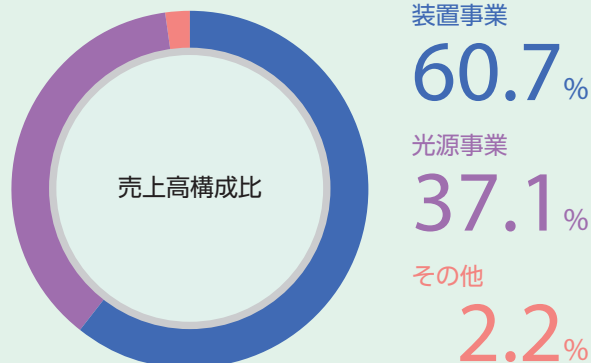
業績ハイライト (2019年4月1日～2019年9月30日)

売上高

820 億円

営業
利益

48 億円



本資料では、切捨てによる億円単位で表記しています。

◆ グループ会社



【装置事業】 光学装置は中国の大型液晶パネル向け液晶関連装置や光配向装置が、映像装置はRGBレーザープロジェクターの販売が増加し、増収増益となりました。

【光源事業】 シネマ用ランプは固体光源化、競争激化による単価下落、長寿命ランプへの切替により売上減少となりました。データプロジェクター用ランプにおいても固体光源化による需要縮小に伴い売上減少となりました。

	[装置事業] 2018.9 ▶ 2019.9*2	[光源事業] 2018.9 ▶ 2019.9*2	[その他] 2018.9 ▶ 2019.9*2
売上高※1	466億円 ▶ 498 億円	345億円 ▶ 304 億円	14億円 ▶ 17 億円
セグメント利益	1億円 ▶ 10 億円	48億円 ▶ 36 億円	1億円 ▶ 1 億円

※1 外部顧客への売上高を記載しています。 ※2 第2四半期累計

社長メッセージ

◆ 2020年3月期第2四半期の業績について

装置事業では、映像装置のRGBレーザープロジェクターの販売が拡大したこと、光学装置で光配向装置を含めた液晶関連装置の販売が上期に集中したことから、増収となりました。加えて、前期から映像装置で進めている構造改革の効果により収益性が改善し、装置事業全体としては増収増益となりました。一方、光源事業では、半導体およびフラットパネルディスプレイ (FPD) 市場の

稼働低迷や設備投資の抑制が続いていること、また、プロジェクターの固体光源化により関連するランプ需要が減少し、減収減益となりました。結果として売上高は、前年同期比0.7%減の820億円、営業利益は同9.2%減の48億円、経常利益は同18.9%減の58億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は同13.8%減の30億円と減収減益となりました。

◆ 下期の見通しについて

映像装置は、シネマおよび一般映像において、RGBレーザープロジェクターの販売が上期に続き好調に推移し、通期予想を上回る見込みです。光学装置でも、最先端にパッケージ向け投影露光装置 (UX-5) の大型案件の出荷が始まることに加え、プリント基板向け直描式露光装置が5Gの進展などを背景に売上が増加する見込みです。さらにマスク検査用EUV光源の売上が増加する見込みのため、光学装置も通期予想を上回り推移する見込みです。しかしながら、光源事業のシネマ用ランプは、

上期に続き厳しい競争環境を背景に通期予想より低調に推移する見込みです。また、UVランプは、中国を中心に有機ELディスプレイで投資回復の兆しが見え始めているものの本格的な投資開始は来期以降と見込んでおり、光源事業は想定を下回る見込みです。

このような状況を考慮し、2020年3月期の通期の業績予想は、2019年5月10日付で公表しました売上高1,700億円 (前期比2.9%増)、営業利益100億円 (同17.4%増) を据え置くことと致しました。

◆ 中期経営計画について

2020年3月期 (当期) は、「次なる飛躍への基礎固め」をテーマとした3か年の中期経営計画の最終年度となります。2年目であった2019年3月期は、映像装置事業の

収益性悪化や光源事業の市場環境の変化、スマートフォン関連市場の減速により1年目と比較して減収減益の決算となり、また残念ながら当期営業利益の目標も100億円

光源事業の減収が続いているものの、
装置事業の健闘により
前年同期並みの結果となりました。
下期は装置事業をけん引役に
増収増益を目指します。

代表取締役社長

内藤宏治



へと下方修正せざるを得ませんでした。

2020年3月期は私が就任して最初の年となります。営業利益100億円を達成することを肝に銘じ、取り組みを進めています。光源事業を取り巻く市場環境は引き続き厳しいと予想されますが、映像装置事業の収益性のさらなる改善と、5GやIoTの進展の需要拡大とFPD投資の回復による光学装置や関連する光源の需要の増加・回復、

およびマスク検査用EUV光源などの新規事業拡大を見据えた経営資源の最適な配分を進めます。同時に、次の3か年の中期経営計画の策定を進めています。皆様に分かりやすく、そして納得いただける成長戦略を2020年5月に発表する予定です。引き続きウシオグループのさらなる発展に向け全力を尽くしてまいります。

事業の概況

事業環境

◆ エレクトロニクス分野

● 半導体・電子部品関連市場

- ・電子デバイス需要は堅調（スマートフォン、車載向けなど）
- ・半導体およびプリント基板は投資・稼働ともに低調
- ・次世代パッケージ向け新規需要が増加

● FPD関連市場

- ・中国での大型液晶パネル投資が継続
- ・中小型液晶パネルの稼働は低調
- ・有機ELパネルが投資抑制・稼働低調、今後は回復傾向

◆ ビジュアルイメージング分野

● シネマ分野

- ・映画館新設数は鈍化
- ・固体光源（レーザー）プロジェクター採用が拡大

● 一般映像分野

- ・映像機器需要は堅調
- ・固体光源（レーザー）プロジェクター採用が拡大

● OA分野

- ・OA機器需要は鈍化

装置事業



映像装置

- デジタルシネマプロジェクター（DCP）
- 一般映像用デジタルプロジェクター、コントロールルーム、シミュレーター、デジタルサイネージ、バーチャルリアリティシステム、プロジェクション・マッピング



光学装置

- 半導体、フラットパネルディスプレイ（FPD）、電子部品製造用各種光学装置（露光装置、光洗浄ユニット、光硬化装置など）
- 紫外線治療器など医療機器
- マスク検査用EUV光源

光源事業



放電ランプ／LED・LD

- 半導体、FPD、電子部品製造装置用光源
- シネマプロジェクター用、データプロジェクター用、OA機器用、照明用および産業用光源

ハロゲンランプ

- OA機器
- 照明（商業施設、舞台・スタジオ、特殊照明など）
- 産業用ヒーターランプ

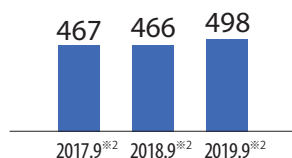
▶ 当期の業績

映像装置

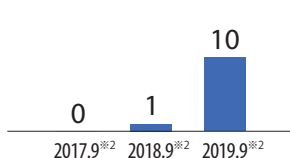
- RGBレーザープロジェクターの販売拡大
(シネマおよび一般映像)
- 構造改革によるコスト削減

光学装置

- 液晶関連装置の売上集中
- EUV先行開発投資

売上高^{※1} (億円)

セグメント利益 (億円)



▶ 今後の見通し

映像装置

- RGBレーザープロジェクターの販売拡大継続
(シネマおよび一般映像)

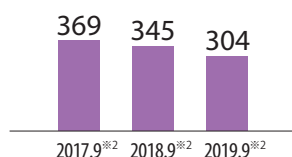
光学装置

- 液晶関連装置は上期前倒しにより下期減
- 最先端ICパッケージ向け投影露光装置の販売拡大
- プリント基板向け直描露光装置の販売拡大
- マスク検査用EUV光源の販売拡大

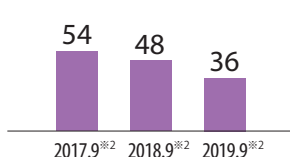
売上高	(億円)		
	2019年3月期 第2四半期累計	2020年3月期 第2四半期累計	2020年3月期 通期(計画)
映像装置	279	304	590
光学装置	175	180	400
照明装置他	12	13	20

▶ 当期の業績

- 露光用UVランプおよび半導体加熱工程向けハロゲンランプの需要減(関連市場での投資抑制、稼働低迷)
- シネマプロジェクター用ランプの売上減(固体光源化による需要減少、競争激化による価格への影響)

売上高^{※1} (億円)

セグメント利益 (億円)



▶ 今後の見通し

- 半導体およびFPD市場の投資回復により、露光用UVランプ販売の回復(本格的回復は2021年3月期となる見込み)
- シネマプロジェクター用ランプの市場および競争環境は厳しい状況が継続

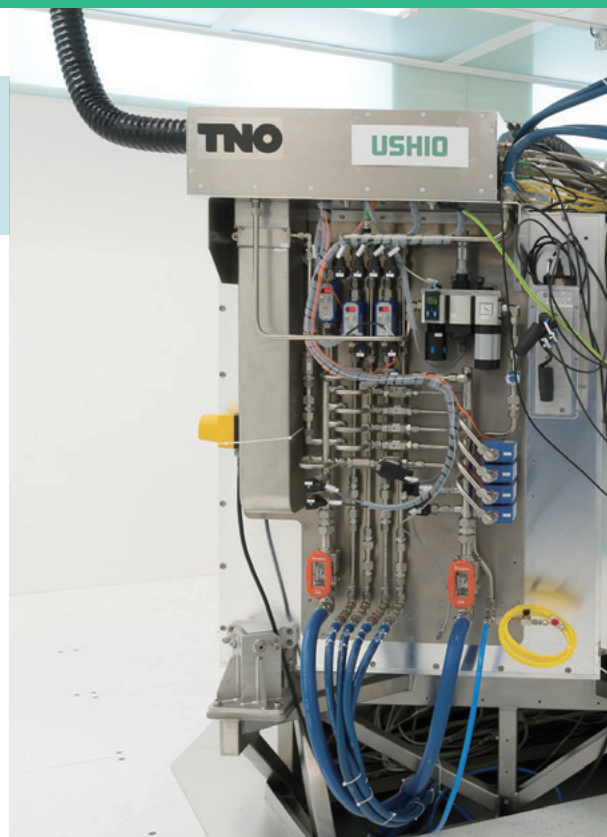
売上高	(億円)		
	2019年3月期 第2四半期累計	2020年3月期 第2四半期累計	2020年3月期 通期(計画)
放電ランプ	287	250	540
ハロゲンランプ	58	53	115

特集 いよいよマスク検査用 EUV光源事業

次世代半導体製造プロセスの実用化を目指して…

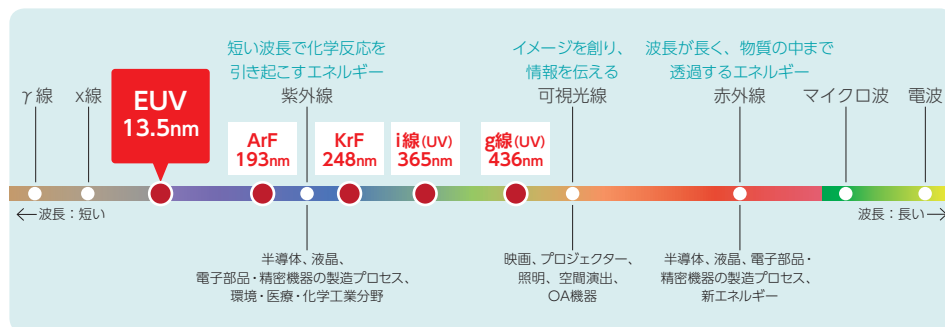
AIやIoT、自動運転など、新しいインフラを実現するためには、高度に微細化された次世代半導体が不可欠とされており、それを実現する技術としてEUV露光が注目されています。このEUV露光を量産技術として確立するためには、高精細なマスクの欠陥を検査・検出する工程の実用化が必須とされています。そのためにはマスクを検査するための小型で高輝度なEUV光源が必要であり、「小型・高輝度・高信頼性」というアドバンテージがあるウシオのEUV光源は、マスク検査用光源として適していると言われています。

ウシオは、長年の半導体業界でのビジネス経験や積み重ねてきたEUV光源技術の「強み」を活かし、マスク検査用に特化し、事業を進め、EUV露光の実用化に貢献します。

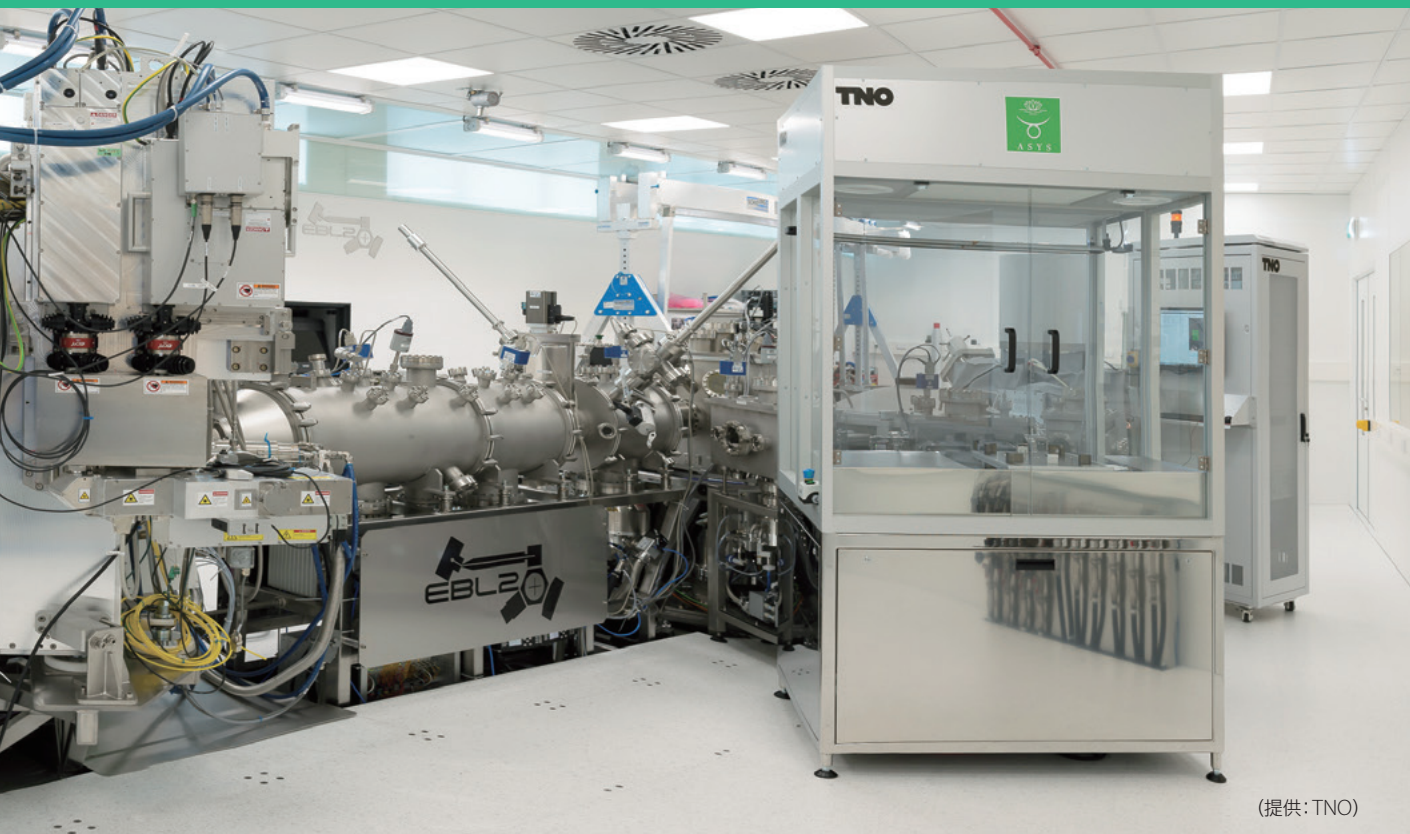


EUVとは?!

Extreme Ultraviolet (極端紫外線) の略で、最先端半導体リソグラフィ光源であるArF、KrFに次ぐ短い波長(13.5nm)を持つ次世代半導体用光源です。



が本格的にスタート!



(提供: TNO)

◆ ウシオのEUV光源開発の歴史

ウシオは2000年からEUV光源の開発を開始し、長くその研究・開発を進めてきました。2016年からは検査用途に特化し、早期事業化に向け取り組んでいます。

2000年	EUV光源開発開始
2001年	EUVA* ¹ 設立、参画 *1 極端紫外線露光システム技術開発機構
2013年	リソグラフィ用途から撤退
2016年	オランダ応用化学研究機構(TNO* ²)へEUV光源納入 *2 The Netherlands Organization for Applied Scientific Research
2018年	検査用(量産用)初号機納入
2019年	量産用初号機納入、検収

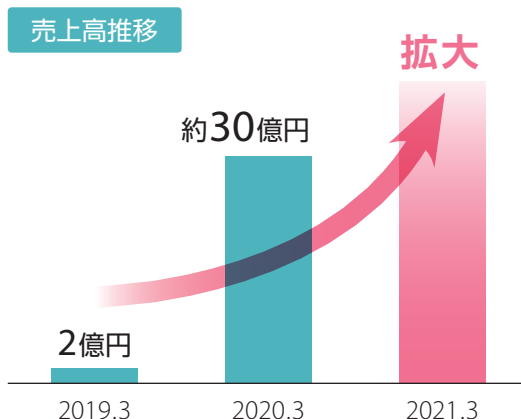
特集 いよいよマスク検査用 EUV光源事業が本格的にスタート!

◆ ウシオのビジネスモデル

ウシオのEUV光源は主にマスク検査装置メーカーや研究開発機関へ提供され、半導体デバイスメーカーの製造ラインでの検査工程で使用されます。

EUV光源はランプとは異なり多くのパーツから成るため、パーツ交換やメンテナンスが必要です。こういったサービスがウシオのEUV事業の収益のひとつとなる見込みです。

2019年3月期のEUVに関連する売上は2億円でしたが、2020年3月期は30億円まで拡大する見込みで、今後も光源の販売とサービスにより売上を拡大させます。



◆ EUV光源事業をブランド化!!

ウシオは次世代半導体量産プロセスの進展に「光」で貢献するという方針の元、従来より研究・開発に取り組んできたEUV光源事業をさらに推し進めるため、開発から製造、運用、アフターサービスに至るEUV光源事業のブランド化を策定し、ブランド名「TinPhoenix (ティンフェニックス)」としてグローバル展開してまいります。

TinPhoenixとは、Tin (錫) + Phoenix (不死鳥) を掛け合わせた造語です。「二つの円」と「その中心の光」が要素となり無限大を表す、インフィニティーマークをモチーフにしています。EUV光源の特徴である、回転する2つのTinサプライディスクイメージと、永遠に生き、輝き続ける不死鳥のように、ウシオのEUV光源事業をとおして世の中に貢献し続けたい、との思いが込められています。





社会トピックス

映画を見たことがない途上国の子どもたちにワクワク、ドキドキを



移動映画館を開催した
バングラデシュの難民キャンプ

ウシオ電機とクリスティ・デジタル・システムズ、ウシオエンターテインメントホールディングスは、東南アジアや南米などの途上国で移動映画館を運営しているNPO法人に対し、プロジェクターなどの機材を提供する取り組み「ウシオ ドリーム プロジェクション プロジェクト」を2019年4月にスタートさせました。このプロジェクトは、ウシオと係わりが深い映画・映像業界に感謝を示すとともに、映画に触れる機会を提供することで子供たちの夢や希望を育み、地域文化の醸成に貢献することを目的としており、途上国での映画上映の他、日本での東日本大震災後の復興支援プロジェクトマッピングや兵庫県姫路市でのイベント開催、養護施設児童の招待映画上映など幅広く活動しています。ウシオグループは、これからも映画のすばらしさを伝えとともに、子どもたちの夢や希望を映し出していきます。

プロジェクトの活動は
こちらをご覧ください。

Facebook
<https://www.facebook.com/ushio.dream.prj/>



Instagram
<https://www.instagram.com/ushio.dream.prj/>



製品導入事例

RGBレーザープロジェクターを多数納入、最新の上映環境を構築

グランドシネマサンシャイン



メインスクリーンとなる「シアター3」



シアター6にはシネマサンシャインオリジナル劇場規格「BESTIA」を導入



館内中央の球体オブジェへの
プロジェクションマッピング(ホワイエ)



クリスティ製RGBレー
ザープロジェクター



グランドシネマサンシャ
イン外観 (Qプラザ)

「グランドシネマサンシャイン(東京・池袋)」は、国内最大規模の「IMAX®レーザー」シアターと日本初上陸の体感型「4DX with ScreenX」シアターに加え、館内すべてのスクリーンにRGBレーザープロジェクターを導入*し、最新の上映環境を備えた日本屈指のシネマコンプレックスとして今年7月にオープンしました。ジーベックスは館内全12スクリーン中、11のスクリーンにクリスティ・デジタル・システムズ(クリスティ)製RGBレーザープロジェクターを納入(4K×4台、2K×7台)し、スクリーンや音響関連機器、シネマサーバーをはじめとする上映システムの構築、販売、施工まで担当しました。

クリスティのRGBレーザープロジェクターは、従来以上の幅広い色域を再現できることに加え、高いコントラスト比で明暗のある鮮明な映像を映し出すことができます。さらに、光源と冷却機構を一体化したオールインワンパッケージにより、施工やメンテナンスなどユーザビリティも飛躍的に向上。感動的な劇場空間の創造をサポートしています。

*館内全シアターにRGBレーザープロジェクターが導入されるのは、国内のシネマコンプレックスで初めての試みです。

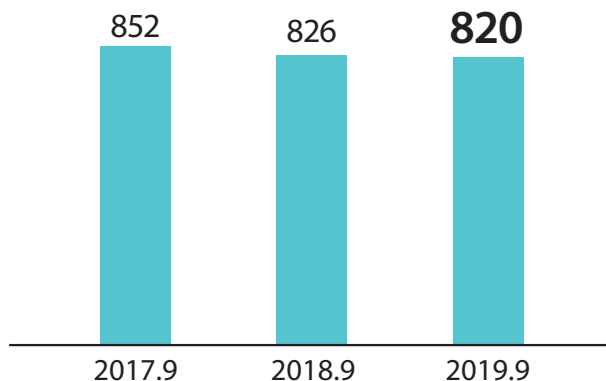
決算の状況

決算情報の詳細は当社ホームページに掲載しています。
<http://www.ushio.co.jp/jp/ir/>

◆ 売上高・利益の推移 (億円) ※第2四半期累計

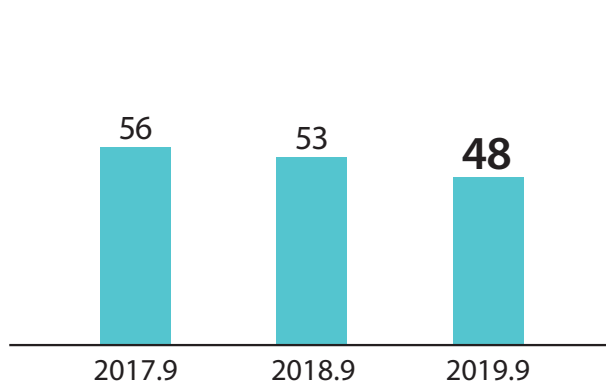
■ 売上高

前年同期比 △0.7% ↓



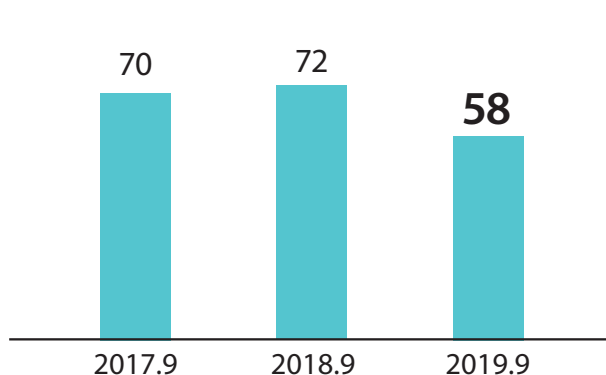
■ 営業利益

前年同期比 △9.2% ↓



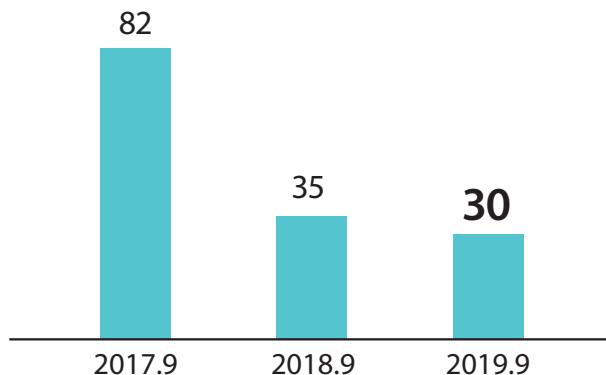
■ 経常利益

前年同期比 △18.9% ↓



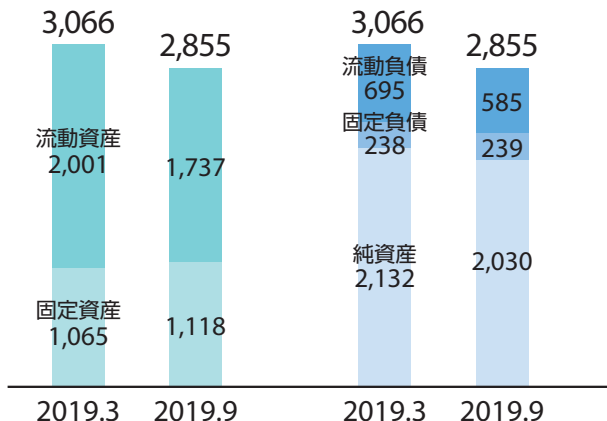
■ 親会社株主に帰属する四半期純利益

前年同期比 △13.8% ↓

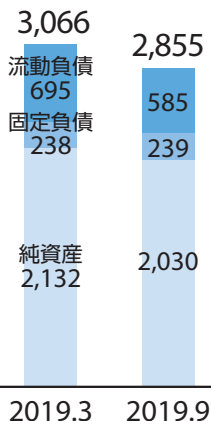


◆ 貸借対照表、キャッシュ・フロー (億円)

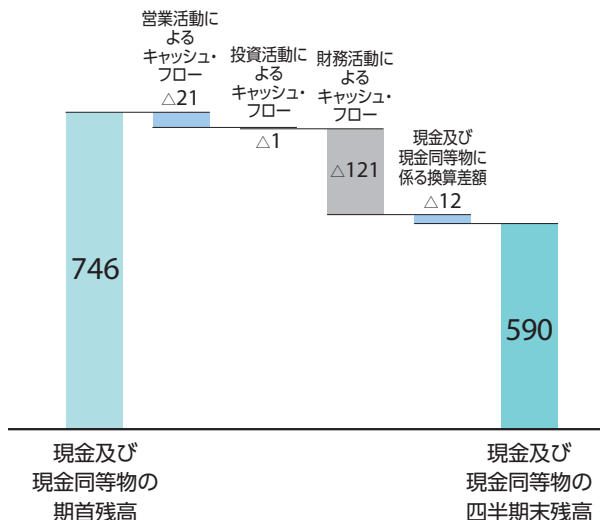
■ 資産の部



■ 負債・純資産の部



■ キャッシュ・フロー



財務・経営企画担当役員からのメッセージ

2020年3月期第2四半期の当社連結業績は、概ね前年同期並みで推移しました。シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプが固体光源化と競争激化で減速したこと、中小型フラットパネルディスプレイ・半導体・プリント基板向けUVランプが低調であったことなど、光源事業が減少しました。一方、RGBレーザープロジェクターの販売が大手シネコンチェーンや博覧会等、大型案件向けに拡大しました。従来より取り組んで参りました構造改革は順調に進展しており、映像装置事業をはじめ、各事業で販管費等削減効果が出ております。

下期に向けては、シネマおよび一般映像でRGBレーザープロジェクターの販売が引き続き好調に推移することに加え、最先端ICパッケージ向け投影露光装置の売上が増加します。7月に量産プロセス用途として初検収を上げた次世代半導体用EUVリソグラフィ向けマスク検査用光源事業が軌道にのります。これらを背景に下期業績は順調に推移する見通しであり、通期公表値である売上高1,700億円、

営業利益100億円を据え置きます。

昨年12月に資本効率の向上のために上限100億円の自社株買いを発表、また、さらなる株主還元強化のため、2019年3月末の1株当たり配当額を50円に引き上げました。現在実行中の自社株買いは9月末時点で進捗約80%と順調に進んでおります。2020年3月期の配当額は前期同様に50円を維持する考えです。

当社は株主各位に対する利益還元が企業として最重要課題の一つであることを常に認識し、財務体質と経営基盤の強化を図るとともに株主各位に対し安定的・継続的な利益還元を行うことを基本方針としております。

今後も引き続き安定かつ継続的な株主還元を目指し、持続的利益創出と資本効率の向上に取り組んで参ります。

上級執行役員 経営統括本部長 朝日 崇文



株主さまとともに

株式の状況 (2019年9月30日現在)

発行済株式総数 133,628,721 株

株主数 10,212 名

大株主の状況 (200万株以上)

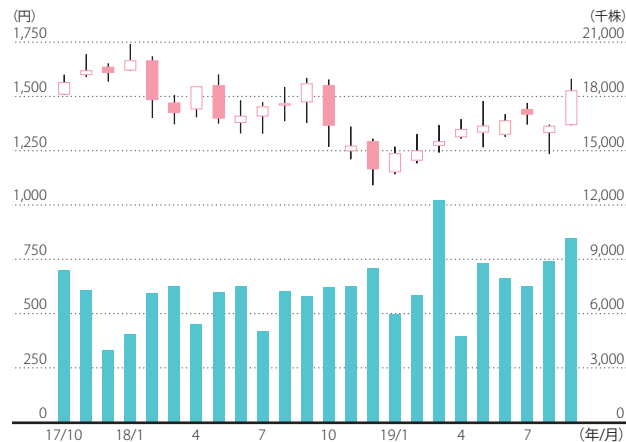
株主名	株式数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	11,284	9.24
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RESILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUEEQUITY TRUST	6,322	5.17
株式会社りそな銀行	6,319	5.17
ノーザントラストカンパニー エイブイエフシー リューエス タックス エグゼンプテッド ペンション ファンズ	5,153	4.22
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	4,402	3.60
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	4,274	3.50
株式会社三菱UFJ銀行	4,248	3.47
朝日生命保険相互会社	3,305	2.70
牛尾治朗	2,636	2.15
公益財団法人ウシオ財団	2,400	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	2,327	1.90
ノーザントラストカンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノントリーディー	2,241	1.83
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505103	2,210	1.81
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505001	2,202	1.80
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RESSD00	2,148	1.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口9)	2,019	1.65

※上記のほか、自己株式が11,533千株あります。なお、自己株式11,533千株には、役員向け株式報酬信託制度に係る信託が所有する当社株式313千株を含んでおりません。

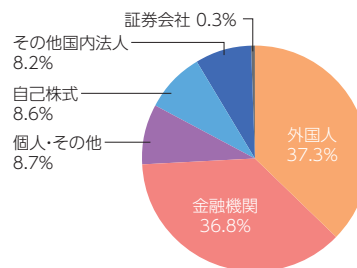
※持株比率は、自己株式11,533千株を控除して計算しております。

※大株主上位に記載されている各信託銀行は、主に国内機関投資家が保有する有価証券の管理事務を行っており、当該機関投資家の株式名義人となっているものです。また信託口とは、当該機関投資家から年金信託、投資信託、特定金銭信託等の信託を受けている口座を指します。

株価の動き／株式売買高



株式の分布状況



◆ 株主メモ

証券コード	6925
事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当 毎年3月31日 その他必要があるときはあらかじめ公告いたします。 なお、中間配当制度は採用しておりません。
1単元の株式数	100株
公告掲載URL	http://www.ushio.co.jp/kokoku ※やむを得ない事由により上記URLにおいて公告することができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株主名簿管理人
および特別口座
管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

〈郵便物送付先〉 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

〈電話照会先〉 **0120-782-031** (フリーダイヤル)

各種お手続きに関するお問合せ先

お問合せの内容	一般口座 (証券会社の口座に記録された株式)	特別口座 (証券会社に口座のない株式)
・住所・氏名等の変更 ・単元未満株式の買取請求 ・配当金の受取方法の指定 ・相続	お取引の証券会社	三井住友信託銀行
・一般口座への振替	—	
・支払期間経過後の配当金	三井住友信託銀行	

「配当金計算書」について

配当金支払いの際に送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社などで行います。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引のある証券会社などにご確認をお願いいたします。

なお、配当金領収証にて配当金をお受取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいております。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

会社概要

設立 1964年3月
資本金 19,556,326,316円

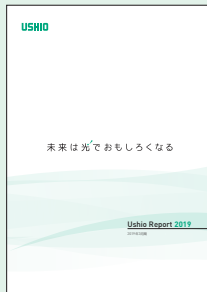
役員(2019年9月30日現在)

代表取締役会長	牛 尾 治 朗
代表取締役社長	内 藤 宏 治
取締役	川 村 直 樹
取締役	牛 尾 志 朗
取締役	神 山 和 久
社外取締役	原 良 也
社外取締役	金 丸 恭 文
社外取締役	橘・フクシマ・咲江
社外取締役	佐々木 豊 成
取締役 (常勤監査等委員)	小 林 敦 之
社外取締役 (監査等委員)	米 田 正 典
社外取締役 (監査等委員)	山 口 伸 淑

従業員数(2019年9月30日現在)

ウシオ電機本体	1,581名
国内グループ計	922名
海外グループ計	3,195名
合計	5,698名

オフィシャルWebサイトもご活用ください



Ushio Report 2019 発行のお知らせ

https://www.ushio.co.jp/documents/ir/library/ushioreport/ushioreport_2019_j.pdf



投資家情報

社長メッセージや決算資料など、
さまざまな情報を掲載しています。

<https://www.ushio.co.jp/jp/ir/>



CSR・環境

環境保全、社会貢献、
安全への取り組みなど、
さまざまな情報を掲載しています。

<https://www.ushio.co.jp/jp/csr/>



発行: ウシオ電機株式会社 経営企画部
〒100-8150 東京都千代田区丸の内1-6-5
TEL: 03-5657-1007 FAX: 03-5657-1020

 <https://www.ushio.co.jp>



公式facebook

<https://www.facebook.com/ushio.group/>



この印刷物は、環境に優しい用紙と、ベジタブルインキを使用しています。